

交渉速報

J R 貨物労組本部業務部

2016年6月10日

No.18

会社：昨年の夏季手当を若干上回るところで考えている。
組合：組合員の苦勞が全く反映されていない！再考を求める！

— 2016年度 夏季手当第4回交渉報告 —

中央本部は、本日10時から夏季手当第4回交渉を行い、会社は現時点の考え方を示しました。

- ①収入状況については、5月末時点で計画に対して95.3%となり、3億7800万円の未達である。6月についても現時点で対計画98.5%で推移している。農産品や紙パルプが低調となっており、前年の収入実績も達成出来ていない状況にある。
- ②青函付加金の収受やORSの収支改善・臨海鉄道との割賦率見直しについては現時点計画に達していない状況にあるが、引き続き施策の着実な実施に向けて全力をあげる。
- ③一方、経費面では動力費や線路使用料の値上げやEH800に関する経費の増加が見込まれており、予断を許さない状況にある。
- ④平成27年度決算は社員の頑張りの結果であることは認識している。これまでの交渉における貴組合の主張も踏まえた上で、鉄道事業部門の黒字化に最大限努力していきたい。現時点、夏季手当については昨年度の夏季手当実績を若干上回るところで考えたい。

**「夏季手当に対する期待は大きい。
士気を高めるために社員に対して投資せよ！」**

会社の考え方に対して中央本部は、以下の点について主張しました。

- ①青函付加金の問題など、これまでの貨物会社の営業姿勢が問われている。経営陣の計画未達に対する危機感が全く感じられないし、挽回しようとする姿勢も感じられない。これまでの交渉で会社は今年度の収入計画は達成すると断言した。収入未達は極めて経営陣の責任であり、組合員に転嫁することは認められない。
- ②貨物労組組合員は会社施策に対して真摯な姿勢で臨み、大変な苦勞を積み重ね結果も出してきた。職場は疲弊しきっている中で、現在も現業・非現業問わず目標達成に向けて努力している。これまでの組合員の努力に応え、目標達成に向けて士気を高めるためにも、「ヒト」への先行投資として今次夏季手当で2.6カ月+5万円を満額支払うこと。
- ③本日会社が示した現時点の考え方は到底納得出来るものではない。貨物労組は要求獲得に向けて組織の総力を挙げた取組みを行なう。職場の組合員の気持ちを踏まえて経営陣は判断すること。

以上3点を通告し、交渉を終了しました。

組合員のみなさん！本日以降、夏季手当獲得の闘いは「山場の闘い」に突入しました。全組合員が結集し、一丸となって満額獲得に向けた闘いを展開し、会社経営陣に私たちの想いを突き付けようではありませんか！中央本部はその最先頭に立って闘うことを決意し、第4回交渉報告とします。

次回交渉（回答指定日）は6月17日（金）です。